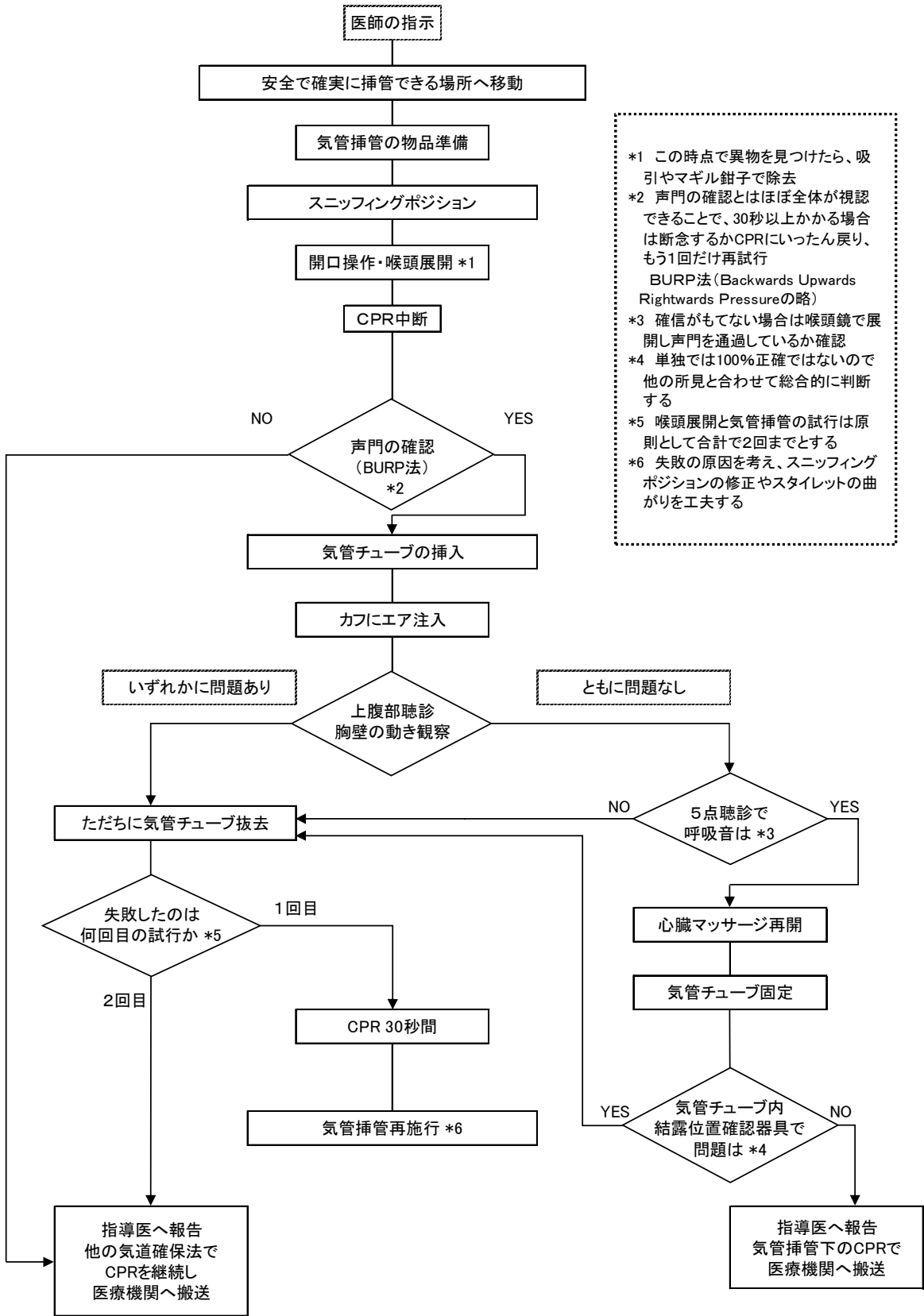


気管挿管プロトコール



- *1 この時点で異物を見つけたら、吸引やマギル鉗子で除去
- *2 声門の確認とはほぼ全体が視認できることで、30秒以上かかる場合は断念するかCPRにいったん戻り、もう1回だけ再試行
BURP法 (Backwards Upwards Rightwards Pressureの略)
- *3 確信がもてない場合は喉頭鏡で展開し声門を通過しているか確認
- *4 単独では100%正確ではないので他の所見と合わせて総合的に判断する
- *5 喉頭展開と気管挿管の試行は原則として合計で2回までとする
- *6 失敗の原因を考え、スニフティングポジションの修正やスタイルットの曲がりを工夫する